

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 55 号

2015 (平成27) 年9月19日 (土)

こども おや かがみ 子供は親の鏡 (Dorothy Law Nolte)

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

「子供は親の背中を見て育つ」とはよく言ったものです。親の言葉のみならず、日常生活の中で子供は無意識に親から様々なことを吸収していくものです。

人は自分が受けたことと同じようなことを、他人にしてしまうことがあります。かつてイジメを受けた人が、その辛さを忘れて、いつしか自分も同じようなことをしていたりします。学校でも職場でも同様です。そうならないように心掛けたいものです。

冒頭の「子供は親の鏡」という詩の作者は、アメリカのドロシー・ロー・ノルトさんで、1954年に創られたものです。当時は保育園主任をしながら、「子育て」についての講演活動をしていました。2005年5月に来日、東京の杉並第四小学校で特別授業を行っています。

ドロシーさんは、「口で何かを教え込もうとしても駄目なのです。親(大人)がどんなふうに喜怒哀楽を表すか、どんな風に人と接しているか。その親(大人)の姿が、手本として子供に生涯影響力を持ち続けることになるのです。」と述べています。2005年11月6日、81歳で他界。

よい親、よい大人になるためにはどうしたらよいのか。思いやりのある心豊かな人間関係を築くためにはどうしたらよいのか。「子供は親の鏡」というこの詩を読むことによって、よい知恵も学ぶことができるかも知れません。少々長い詩ですが是非、全文を味わって読んで見て下さい。

こども おや かがみ 子供は親の鏡

けなされて育つと、子供は、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子供は、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子供も不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子供は、みじめな気持ちになる

子供を馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人をうらやんでばかりいると、子供も人をうらやむようになる

叱りつけてばかりいると、子供は「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子供は、自信を持つようになる

ひろい心で接すれば、キレる子にはならない

褒めてあげれば、子供は、明るい子に育つ

愛してあげれば、子供は、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子供は、自分が好きになる

見つめてあげれば、子供は、頑張り屋になる

分かちあうことを教えれば、子供は、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子供は、正直であることの大切さを知る

子供に公平であれば、子供は、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりを以て育てれば、子供はやさしい子に育つ

守ってあげれば、子供は、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子供は、この世の中はいいところだと思えるようになる